

広田診療所長
岩井さん

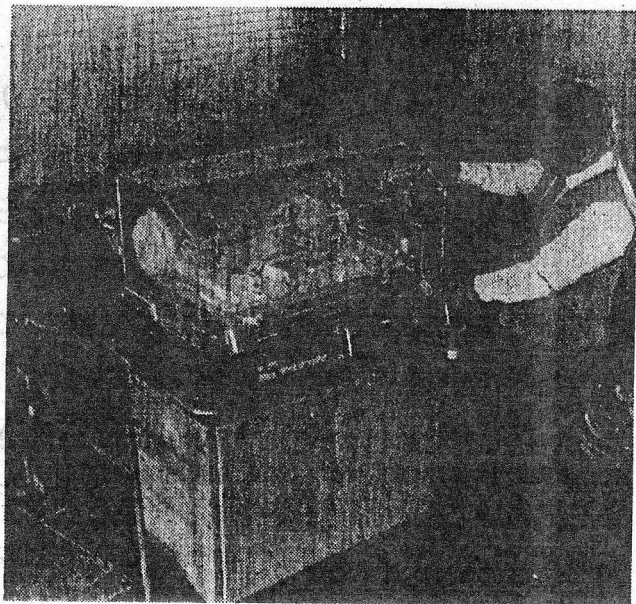
新病院設立へ機器集め

宮古病院協力 保育器など提供



Bangladesh の病院設立支援に奔走する岩井くにさん

経済の遅れ、医療施設の不備が叫ばれている Bangladesh の病院設立を支援するため、陸前高田市広田町の国保広田診療所長岩井くにさんに、現地に医療機器を送る活動に取り組んでいる。加入するアジア医師連絡協議会（AMDA）本部（岡山市）が、日本・Bangladesh 友好病院の設立に全面協力する決定を受けて奔走。移転新築した県立宮古病院が不要になった手術台などの機器の提供を受け、八日も搬出される。



県立宮古病院が提供する医療機器

AMDAは、タイのカンボジア難民キャンプで活躍した日本人医師らがアジアの若手医師に呼び掛けて昭和五十九年に発足。コリアのより良き医療、より良き将来」を理念に日本やフィリピン、インドなど十三カ国に支部が結成されている。約四百人の医師らが加入、医療を通じた相互支援活動などを展開している。岩井さんは一関市出身。一関一高を経て自治医大在学中、医学学生で組織するアジアレベルの研修・交流団体で活躍。卒業後、県立釜石病院に勤務する傍ら昭和六十一年、AMDAに入会した。

県立釜石病院時代の一年前、不要になった医療機器をカンボジア難民キャンプに提供。昨年春には、Bangladesh のミャンマー難民キャンプで働く医師に白衣を送るなど地道な活動を続けていた。こうした中、東大などに留学中の三人の Bangladesh シュ人医師が三月末で帰国、AMDA日本支部の全面的支援を受けて病院を開設することになった。同国の留学生は大半が帰国せず、給料が高い日本やアメリカなどで就職する中、三月末に横浜港から同国に向かうが、友好病院は今夏をメドに首都ダッカ郊外に設立される予定だ。岩井さんは「Bangladesh シュは外科が遅れている。母国の医療向上のため三人が立ち上がった。三人はAMDA Bangladesh シュ支部のメンバーでもあり、日本支部の会員に医療機器の提供を呼び掛けた。岩井さんは、県医療局を通じて移転改築された県立宮古病院に協力を要請。病院側も申し出を快諾し、設備更新に伴い不要になった手術台や手術用ライト二基、分べん台、保育器が Bangladesh シュに送られることになった。

が、三人のうち二人が外科医。日本で学んだ技術を生かして先端医療に取り組みたい」と話しており、医療レベルが向上するのには違いない」と話している。